

発言通告書（総括表）

平成30年第4回定例会 代表質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
1	嶋崎議員 (自民)	1. 人口増加を見据えた今後の行政サービスと財政運営について 2. 景観行政団体移行について 3. 外濠公園総合グラウンドの整備について 4. 障害者福祉センター「えみふる」の運営と障害者への対応について 5. 地方との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加によりコミュニティ、子育て、公共施設などの課題があり、しっかりとした財政運営が必要。 ・国の税財政制度改革の動きの中、基金などの活用も必要ではないか。 ・景観行政団体移行の準備状況は。 ・千代田区の歴史と風格を活かしながら、都心に相応しい都市景観を創出するまちづくりが必要。 ・区民体育大会がコンディション不良で2年連続中止となった。区の見解を問う。 ・整備に向け、課題を明確とし、対策の立案と確実な実行を計画的に行うべき。 ・「えみふる」の機能を十分に活かし、安全かつ効果的、効率的な運営ができているか、課題はないか。 ・利用者のニーズを反映し、丁寧できめ細かな対応と障害者本人と家族が安心できる態勢をどのように整えていくのか。 ・水や電気等のエネルギー、食糧が地方から提供されている現状を踏まえ、区は地方との連携を強く推進すべき。 ・孺恋村、五城目町との姉妹提携30周年を迎えることを契機として更に取り組みを強化すべき。 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
2	林議員 (千代田)	基本計画の見直しと行政評価について 人口推計と「次世代育成支援計画」	<ul style="list-style-type: none"> ▷「千代田区第3次基本構想」と「ちよだみらいプロジェクト-千代田区第3次基本計画2015-」 ▷基本計画と分野別計画との関係 ▷行政評価の成果 ▷教室数は対応できるのか？ ▷校庭面積と標準面積と児童数 ▷学童クラブの整備 	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

平成30年第4回定例会 代表質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
2	林議員 (千代田)	<p>小学校体育館のエアコン整備</p> <p>史跡「江戸城外堀跡保存管理計画書」</p>	<p>▽リース方式と工事契約の基準について</p> <p>▽リース方式を採用した意思決定過程について</p> <p>▽東京都の補助対象にリース方式は該当するのか？</p> <p>▽教育と文化のまち千代田区宣言との関係</p> <p>▽文化財保護に関する教育委員会の意思決定過程</p> <p>▽文化庁との協議過程と文書保存</p>	<p>区 長 教 育 長 関 係 理 事 者</p>
3	牛尾議員 (共産)	<p>国民健康保険料の軽減について</p> <p>教師の多忙化を解消し、学校をより良い教育の場にするために</p>	<p>◆高すぎる国保料の引き下げを求める声が党区議団に多く寄せられている。現在の国保料が国保世帯に対し多大な負担となっていることについてどのように思うのか、区長の認識を問う。</p> <p>◆国保料を「協会けんぽ並み」に引き下げるためには国保の公費負担の抜本的な増額が求められると思うが、区長の認識を問う。</p> <p>◆千代田区の今年度の国保料は区の独自施策によって中堅所得層以下の国保料が引き下がった。来年度以降も国保料を引き下げるために、法定外繰り入れの継続といっそうの増額を求める。</p> <p>◆国保料の均等割額が、多子世帯など家族の多い世帯にとって重い負担となっている。多子世帯への均等割額の負担軽減策を区独自に行うことを求める。</p> <p>◆わが党の区政アンケートでは「教師の多忙化解消」が区に力を入れてほしい施策で上位。教師の多忙化解消を真剣に行うためには教員を大幅に増員することが求められていると思うが教育長の認識を問う。</p> <p>◆教師の多忙化解消に向け区はタイムカードの導入など、勤務実態の把握に努めるとともに、学校の事務の一部を担う学校事務センターを試行的に設置したが、現在、区立学校の教師の働く実態をどのようにとらえているのか。また事務センター設置は学校現場の多忙化解消に効果があるのか現状を問う。</p> <p>◆教師の多忙化解消のために区の施策の強化を求める。</p>	<p>区 長 教 育 長 関 係 理 事 者</p>

発言通告書（総括表）

平成30年第4回定例会 代表質問

No.	発言者	発言事項	発言要旨	答弁を 求める者
4	岩佐議員 (紡憲)	1、学校給食費の公会計化について 2、持続可能な開発目標について	現在私費会計として扱われている学校給食費は、教職員の負担軽減および会計の透明性を確保するために公会計で管理するべきではないか。 学校給食費の公会計化について問う。 国連加盟国が2030年末までの達成を目指す「持続可能な開発目標(SDGs)」について、その認識と区政にどう活かしていくのか、考えを問う。	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者
5	大串議員 (公明)	「資源循環型都市千代田」を目指して!	1. プラスチックによる海洋汚染が深刻である。 今こそ、「大量生産、大量消費、大量廃棄型社会」から「資源循環型社会」への転換を具体的にすべきである。このような社会の転換を目指したのはもう20年も前であり、区はそのための基本計画として「千代田区一般廃棄物処理基本計画」を策定した。その後、見直しを重ね現在は第四次の計画となっている。そこで、改めて計画を踏まえての「資源循環型都市千代田」構築へ基本的な考え方を問う。 2. プラスチックごみ削減に向けての具体策について 3R（使い捨てプラスチックの削減などの発生抑制、再使用、リサイクル）の推進、特に2Rの推進が重要。 1）そのためには生産者（サーキュラーエコノミー）も消費者（ライフスタイルの転換）も、意識改革が必要である。普及啓発の方法は。その一つとして、レジ袋からマイバッグへ、ペットボトルからマイボトル、マイカップへ、誰もが参加できるキャンペーンを行うことを提案する。所見は。 2）計画には、「企業やNPO、大学との連携と協働」が必要であるとし、そのための場や機会を設けるとしている。また区はそのコーディネート役を果たすとある。大いに賛成である。具体的にはどうするのか。	区 長 関 係 理 事 者